こちらフリースケールです。それぞれの成長が喜び!

2017年3月、フリースクールでは 「卒業と成長を祝う会 | が開催され ました。フリースクールでは、学校を 卒業する子どもたちに「卒業証書 | を、それ以外の子どもたちにも、1年 間成長してきた証を記した[歩み 証」を渡しています。子どもたちは 日々成長しています。それは、進学 や進級、就職といった目に見えるも のもそうですが、「安心できる場所 や人が増えた」、「自信が育ってきて いる」、「視野が広がった」、「自分の 進路を考えようとしている」、など、 目に見えにくいものも立派な成長 です。しかし、目に見えにくいからこ そ、自分ではその成長に気づけな かったり、周りからも気づいてもら えないこともあります。「自分の成 長を振り返って、頑張った自分に気 づき、そして胸を張って欲しい。」そ んな気持ちが、この証書には詰まっ ています。そして、卒業と成長を祝 う会には、保護者の方や、ボランティ アの方、理事の方など、多くの大人

に参加していただきました。こんな にも多くの人が、子どもたちの成長 を喜んでくれている。それは、私たち スタッフにとっても大変うれしいこ とですし、子どもたちの自信にも繋 がるのではないかと思います。ご出 席いただいた皆様、心より感謝申し 上げます。

それぞれの成長を遂げ、2017年 4月、子どもたちも新たな季節を迎 えました。進学や進級、アルバイトな ど新しい環境に不安と期待に胸を

膨らませている子、現 状を維持しながら今の 自分やこれからの自分 を見つめている子、新 しくフリースクールに 加わった新メンバー。 春は新しいことに向け て動き出す時期です。 しかし、今は動かず、自 分を見つめる時間も大 事な時間です。誰かと 比べて、焦ってしまい

がちな時期でもありますが、それぞ れの子どもにそれぞれのペースに 合ったステップがあります。私たち は、子どもたちがその子らしい生き 方を主体的に選択できるように、現 状をまず認め、その子どものペース に寄り添っていくのが大切だと思っ ています。子どもたちには、前に進 もうとする力があります。そんな力 がエンパワメントされるような空間 を今年度も作っていきたいと思い



これからの活動予定

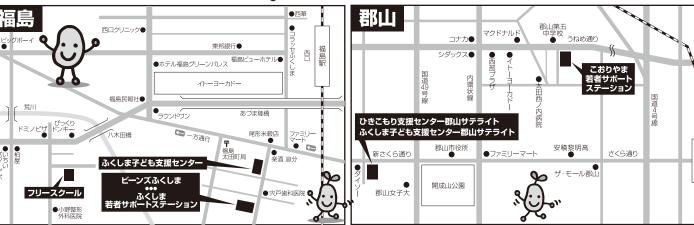
●子育て支援センター みんなの家@ふくしま 5月30日(火) 10:30~12:00 子育て講座「幼児期からの性教育」。





新年度とともにまた春がやって来ました。 今年は桜の開花が少し遅かったためか、私 にとって桜が咲くのがより待ち遠しかった

です。桜がやっと咲き始まりついに満開になったときには 「やっと来た一」と、とても感動的でした。桜を初めて見る子ど もの目には、桜はどのように映るのでしょうか。子どもが初め ての体験をするように、私も新鮮な気持ちで、今年度もいろい ろなことに挑戦していきたいと感じさせられました。



http://www.beans-fukushima.or.ip/

クビーンス涌

NPO法人ビーンズふくしまは、不登校の子どもやひきこもりの青年などに安心できる居場所を提供し、 1人1人に寄り添って、ゆるやかな社会参加を促し、その自立を支援する、若者支援の理念に基づいて事業を展開しています。

1999年、子どもたちの居場所で あるフリースクールからスタートした ビーンズふくしま。

若者支援への取り組みは、そこか ら始まっていました。20才を過ぎた 若者が、通信制高校のレポート作成 を手伝ってもらいたいと現れたので す。当時は、特に年齢制限のなかった フリースクールでしたので、彼は活動 にも参加しながら、レポート作成の サポートを受け無事通信制高校を卒 業することができました。

そして、2003年、法人化の際に、 ひきこもりの若者たちのご家族とと もに活動をしていたことから、ビーン ズふくしまは、不登校の子どもたちと 「ひきこもりの青年たち」の「その牛 き方と学習を支援するとともに、広く 青少年が自分らしく生きるための支 援を行う」ことを、その定款に掲げま した。ビーンズふくしまとして、正式に 若者支援をスタートしたのです。

その当時、国では長期にわたる不 況を背景に急激に増えたニート(仕 事に就かず、就学もせず、職業訓練も 受けていない若者)対策のため、若者 自立・挑戦戦略会議が「若者自立・挑 戦プラン」を発表し、「若者支援」の取 り組みを始めました。全国に若者支 援の流れが広がり、福島県でも若者 の就労支援の取り組みである「ジョブ

トレーニング事業」が始まり、若者支 援を始めていたビーンズふくしまは、 行政から初めて委託事業の声がけを 受けることとなりました。

ビーンズふくしまとしては、若者た ちの居場所である「ビーンズプレイ ス」を開催していたことから、若者の 新たな活動プログラムの広がりに なっていくのではないかということ で、委託を受けることにしました。仲 間と共に行う仕事体験は、若者たち にとっては自信を回復していく機会 となりました。

2006年、厚牛労働省は若者の自 立・就労支援を目的とした「地域若者 サポートステーション | をスタートし ました。その時も、福島県より申請を してはどうか、との声がけをいただき、 若者たちの社会参画へのステップと しての新たな取り組みができるので は、と2007年ふくしま若者サポート ステーション、2008年こおりやま 若者サポートステーションを受託す ることになりました。

その後全国に地域若者サポートス テーションの数が増えていく中で、 「働けない」事情を抱えた若者が少な くないことがわかってきました。複合 的な困難を抱え、サポステだけでは 支援は完結せず、地域の関係機関の 連携が必要なことなどが見えてきた

のです。若者にとって、就労だけでは ない自立に向けた支援が必要である ことが明らかになってきました。

2010年、そうした状況を踏まえ、 「子ども・若者育成支援推進法」が施 行され、「子ども・若者を育成の対象 としてとらえるのではなく、社会を構 成する重要な主体として尊重する。」 「すべての子ども・若者の成長・発達 を応援するとともに、困難を抱えて いる子ども・若者がその置かれてい る状況を克服することができるよう 支援する。ことと共に、関係する国・ 地方公共団体の機関、民間団体等の 間で緊密に連携をとりながら、全力 で取り組むことが示されたのです。 そのために、今福島県で取り組まれ ているのが、各地で開催されている 青少年支援協議会です。

2012年、現在のユースプレイス事 業の前身である「ピアサポートネット 事業」も、就労支援とは異なる若者の 活動プログラムとして開始されまし た。このように、ビーンズふくしまは 若者支援の歩みを進めてきました。



第15回法人総会のご案内

年度も替わり、皆さまお忙しくお過ごしのことと存じます。

さて新年度の総会の予定が、下記のように決まりましたので、ご案内させていただきます。

日時:平成29年6月18日(日)13:00~16:00●会場:吉井田学習センター(予定)

01

居場所づくり

家でも学校でも職場でもない、安 心して自分らしくいられる若者の居 場所作りは早くも6年目に突入しまし た。「ふくしまピアサポートネット」の 名称で3年間、県内6地域で居場所づ くりを実施後、平成27年度からは 「ユースプレイス事業」として県中・県 北地域で活動を続けています。様々 な悩みを抱える若者が、就職するこ とや進学することは一旦わきに置い て、楽しむということを通して、仲間 と共にたくさんの経験・体験を積み、 自分なりの一歩を踏み出していける ような場づくりを一貫して行ってき ました。最初は7名の参加者でスター ト。どんな場を作ればいいのか、どの ようにすれば『場がある』ことの情報 が必要としている人に伝わるのか悩 み、試行錯誤しながらのスタートでし たが、6年間の継続の結果、現在では 30名を超える若者が参加してくれて います。『自信をつけたい』『コミュニ ケーションがうまくなりたい』『一歩 踏み出したい『そんな希望を持った 若者たち。彼らにとって、場があるこ とは持っていた力を発揮するきっか けとなります。最初、緊張の面持ちで 集った彼らは、スタッフとの関係性作 りから始まり、何度も通いながら場 に対する安心感を育み、様々なプロ グラムを诵して仲間同十の関係性が 生まれ始めます。そして、「場」は安心 して失敗できる[居場所]となってい きます。先輩参加者は初めての人を サポートし、仲間の力、場の持つ力が 一人一人を温かくフォローしていき、 そしていつの間にか彼ら自身が主体 的に場を創っています。人と繋がった こと、人と違ってもいいと思えたこと、 "やるべきこと"より"やりたいこと" を大事にできたこと、そんな経験を

通して仲間と共に自信を育んだ彼らは結 果として、就職や進学など社会に出る傾 向にあります。が、もちろん人によってそ の期間は様々です。若者が自分自身の ペースで一歩を踏み出していくにはユー スプレイスのような場が当たり前にあり 続けるということが非常に大事なことだ と痛感しています。

また、地域活動にも積極的に参加して おり、手づくりイベントへの出店、保育園 やお花屋さんでのボランティア活動など も実施しています。地域活動は、若者た ちが人々と繋がり、若者の力が地域の力 として活かされることで、若者たちの自 信に繋がっています。そして地域には面 白い人たち、魅力ある人たちが大勢いま す。そんな大人との出会いの場を多く作 ることで、あんな生き方をしたい、ああい う大人になりたいというロールモデルを 多く見つけるきっかけになればと思って 活動しています。地域もお年寄りも大人 も若者も子どもも一人一人が緩やかに

つながりあいながら、"なんとかしようと しない"場づくりを今後も継続していき



地域における 若者支援のこれから

国や行政、そしてビーンズふくしま における若者支援の歩みと実践を見 てきました。就労支援を目的としてき た国や行政の若者支援の取り組みは、 一定の成果を上げてはきましたが、 その限界も見え、若者支援の奥の深 さと新たな支援のしくみの必要性を 感じることとなりました。

若者の抱える様々な悩みの背景に ある様々な社会課題、それが若者支 援の難しさに繋がっています。雇用 に関わる問題、教育に関わる問題、家 庭に関わる問題等を背景に、若者は 悩みを抱え、自信を失っているので す。ですから、そうした若者支援を地 域社会として取り組んでいくことが 必要である、とあらためて考えます。

家でも学校でも職場でもない、 安心して自分らしくいられる 若者の居場所

まず、若者が本来の力や自信を回 復していく場としての「居場所」、これ は若者支援にとっては、一番必要と されています。現在、福島県の委託事 業として県内5カ所で実施している 「ユースプレイス自立支援事業」で実 践されています。しかし、委託事業と しての継続の課題と、広い福島県を 考えた時に、支援を利用するための 若者の経済的負担(交通費等)と、若 者が支援を利用すること自体の限界 が課題としてあげられます。

また、居場所を継続していくための 運営資金については、若者がその利 用料を負担することは現状難しく、公 的資金を含めた何らかの資金獲得の 手立てを考えていく必要があります。

様々な働き方ができるしくみ

働くことは、若者の自信にも繋が

高いためその一歩が踏み出しにくい という状況があります。そこで、様々 な働き方ができるしくみがあったら、 と思います。例えば、短い時間での働 き方、安心できる仲間と共にできる働 き方等、これまでの働き方の価値観 とは違った働き方を模索していくこ とが必要であると考えます。企業や 事業所の皆さんと共に考えることが できたら、新しいアイデアが生み出さ れるのではないかとも思います。県 外では、様々な取り組みが実践され ているので、参考にしながら福島県 でも実践していきたい、若者支援に とって、これから必要な取り組みです。

こうした若者支援を実施していく ためには、若者支援に対する地域社 会の理解と、事業所も含めた地域社 会の協力が必要であり、行政と民間 の協力が不可欠であることはいうま でもありません。

若者支援を、若者特有の問題とし て見るのではなく、社会全体のあり 方の課題としてとらえ、若者が本来の 姿でいられる社会創りを地域の皆さ んと共に模索し、挑戦していきたい



これまでの若者支援から見えたこと

就労支援

厚牛労働省の若者の自立・就労支 援事業としてスタートした若者サ ポートステーション事業(通称:サポ ステ)は今年で11年目を迎えていま す。郡山市にあるサポステでは、これ まで1000名以上の方が利用し、た くさんの方が就労への一歩を踏み出 してきました。

サポステを運営していく中で、若者 の就労の複雑な課題背景が、徐々に 地域へ認知され始めているのを感じ ています。精神疾患によって困難を 抱える若者、生活習慣やスキルを学 びなおす必要がある若者…福祉・医 療・教育など、様々な機関と連携する ことが増えています。しかし、制度の 狭間にいる方(障害のハンデはある が、制度の対象にならない等)をサ ポートできる機関は少なく、サポステ ます。彼らを対象にするには、支援の 余幅が必要です。しかし、サポステー 就労支援である以上、評価基準は"就 労率"になります。より成果を上げる ためには、就労しやすい人に注力し なければならないのですが、就労ま での道筋が長い若者をサポステの キャパシティを越えて担わざるをえ ない実情としては、まだまだ地域資

源が充分ではないと言えます。

がその役割を地域から求められてい

特に、以下の3つの支援の必要性 を感じています。1つは、本格的な就 労への小さなステップとして働ける 場所です。就労へ踏み出せない若者 の中には、自分に自信が無い、働く喜 びが分からないといった方もいます。 単発の職場体験では、継続した就労 との間のギャップが大きく、その間 をつなぐ「中間の就労」の場が足りて いません。それは、日々の就労をしな がら、その時の気持ちや行動を確認

し、少しずつ自信を回復していける場です。

2つ目は、就労準備への経済的な支援 です。支援を利用するには交通費がかか ります。しかし、「バスに乗るお金が無い から相談に行けない | や「職業訓練に興 味があっても、テキスト代が払えないか ら諦める」といった若者もいます。経済 的に困窮している若者が支援を利用で きない環境は非常にもったいないです。 さらに、これが「支援が必要な層が本来 どれくらいいるのか」を把握することを 難しくしています。

そして3つ目は、就労だけがゴールで はない社会の居場所です。サポステは自 力で通所できる方が対象になります。ひ きこもり支援の観点では、訪問による 「発見→誘導→活動→就労(出口)→定 着 といった流れで整理されますが、誘 導の段階で対人不安が高く外出が困難 な若者と、就労意欲があって自力で外出 できる若者の間にはかなりのギャップが あります。それを埋めるためには、訪問支

援(=家の中)や就労だけが目的でない活 動場所で、人生の豊かさを獲得できる機 会がなければなりません。家の中や外で 「認められる、褒められる、応援してくれ る一ことを経験することは、働きたいとい う気持ちや努力する理由が生まれるきっ かけになります。

費用対効果を求めることで短期的にな りがちな若者支援ではありますが、従来 の就労支援の限界もどこかで認めなけれ ばいけない時期でしょう。変わるのは若 者ではなく、私たちです。私たちは目の前 の若者の声に寄り添い続けることを忘れ ず、彼らが本来の姿で生きられるような 社会のあり方を今後も目指していきます。



る機会になるものの、不安が強く、自 信がない若者にとっては、ハードルが

02